

第3回「海陸風と大気汚染に関するシンポジウム」

での発表論文について

天気、21巻、6号(1974年6月)に予告しました標記のシンポジウムのプログラムは次の通りです。ただし予稿集編集の過程で順序が若干変更になるかも知れませんので、その点ご了承ください。

プログラム

1. 富山県地方の海陸風
油本幸夫(富山県公害センター)
2. 宇部・小野田地区における海陸風、一昭和48年11月29日、昭和49年3月28日の分一
永山盛善(下関地台), 生駒 進(気象協会福岡本部)
3. 宇部地区における海陸風、一昭和48年8月18日の分一
永山盛善(下関地台)
4. 水島地区の海陸風
河村 武(気研)
5. 広島湾周辺の海陸風の特性
国保政行(広島地台)
6. 広島湾における海陸風の広域特性
宮田賢二(広島女子大)
7. 関東地方の海陸風について
中村喜三雄(気象協会)
8. 臨海地帯の海陸性特性
元田雄四郎, 早川誠而(九大)
9. 瀬戸内海の二種類の海風について(第2報)
佐橋 謙(岡山大)
10. 広島市における海陸風時の熱収支観測
山口信之(高知大)
11. 海陸風の構造の日変化に関する諸特性について
吉野正敏(筑波大学)
12. 広島市の海陸風の数値計算
南日俊夫, 小西達男(気研)
13. 海陸風に対する山岳効果について(序報)
山元竜三郎(京大), 宮田賢二(広島女子大)
14. 大阪湾周辺地域の地上風系と上層風について
広瀬元孝(気研)
15. 水島地域における測風多点観測について
大熊勝秋, 森 雅夫, 阿部 進(倉敷市公害監視センター)
16. 京大原子炉敷地における夜間の逆転について
水間満郎(京大原子炉実験所)
17. 都市気塊と局地循環の生成、一2次元数値モデル一
沢井哲滋(東大)
18. エクマン層内の渦動粘性係数の算定について
桜井邦雄(神戸海洋), 山元竜三郎(京大)
19. 風向の統計的処理について
岡本雅典(広島大)
20. 航空機による瀬戸内の観測
中島鶴太郎(京大)
21. 福山南小学校における暖候期の海陸風とオキシダント濃度の日変化について(昭和48年夏)
前田米造, 大田盛三, 千葉為利
22. 大阪府南部の光化学スモッグと海風
佐藤 功(大阪管区)
23. 山口県瀬戸内の海陸風と光化学スモッグ発生の関係
山本武夫(山口大)
24. 新潟付近の海陸風と大気汚染について
根山芳晴(広島地台)
25. 呉市の大気汚染について
呉測候所
26. 札幌・苫小牧地区の大気環境調査に関する研究
内田英治, 丸山栄三, 杉中誠一, 田村和也, 足立 崇(気象庁)
27. 簡易シミュレーション・モデルによる東京地方の大気汚染
竹内清秀(気研)
28. 局地風と大気汚染に関する数値実験
斎藤直輔(気研)